

教会短信

牧師 間瀬 善彦

「めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか」

(マタイ福音書23章37節)。

新緑の美しい季節になりました。カラスも子育てのために忙しい時期です。教会の近くの木にカラスが巣を作っているようです。人間のいる近くまで近づいて、雛のためにえさを探しています。近くの家の猫にキャットフードをあげているのを目撃されてしまったのでしょうか。外出しようと玄関を出ると、すぐにカラスが飛んできます。そして、近くに止まってわたしの方にくちばしを向け、盛んにカアカアと鳴き食べ物を要求するようになりました。カラスを無視して通り過ぎようとする、頭すれすれに飛び執拗に食べ物をねだろうとします。先日はカラスに頭を蹴られてしまいました。カラスは空腹で気が立っていたのでしょうか。カラスも雛を育てるのに必死に生きているのです。親鳥の雛に対する愛情の深さを感じました。

聖書の中に神の人間に対する愛を表わす表現として、「めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか」という言葉があります。母鳥は危険を感じると、雛を羽の下に隠し、身をまもろうとします。これは、実に美しい愛の姿です。そのように、神は人間を愛し、生きていくために必要なものを与え、教え導こうとされています。そのために、ご自分の御子イエスをこの地上に遣わされました。イエスは神の愛を説き、人びとに悔い改めて神のみ言葉に従うように何度も呼びかけました。しかし、イエスの生きていた時代の人びとは、イエスの呼びかけに応えようとしませんでした。そればかりではなく、イエスをじゃまものとして十字架につけて殺してしまったのです。

親鳥は自分の身を犠牲にしても、子を守ろうとします。神はご自分の御子イエスを犠牲にして、わたしたちに神の愛を伝えようとしてくれました。神は親の気持ちとして、どんなにつらかったでしょう。そうまでして、神は人間に、「神は人間ひとりひとりを愛している」と伝えたかったのです。イエスは十字架上での苦しみの最中にもわたしたちのために罪の執り成しの祈りをされました。イエスの執り成しの祈りによって、わたしたちは悔い改めて神の方に心を向けるならば、神の愛を知ることができるのです。

出会い

私がクラスメートのSと出会ったのは1955年代、まだ日本が貧しかった頃であった。仕事をしながら勉強を続ける勤労学生もたくさんいた。Sもその一人である。だがその当時、学業と両立するバイトはほとんどなく、Sは建築現場の資材運び、デパートの商品配達、トイレの清掃などをしながら学校へ来ていた。Sは既に結婚していて奥さんも毎日一生懸命働いていた。

ある日、学徒援護会で、「働く曜日が選べる書店の定員」という長期にわたる、かなり安定したバイトがあった。ところがもう一人応募者がいて抽選になった。Sはその抽選を断り、その人に仕事を譲った。理由は、その人は三度の食事也十分食べていないらしく、痩せていて顔色も悪く、その上、病気の母親を支えていることを知ったからである。それを聞いて私は言った。「Sさん、そんな良いチャンスを逃すなんて！ あなただって苦しいのに」。「いや、あとは神様におまかせした」とSはニコニコしていた。

やがてSが教会に行っていることを知り、聖書を学んでいることを知った。Sはときどき「イエス・キリストのように生きることができたらいいなあ」と言っていた。卒業後、Sは留学試験に合格し、渡米した。

私はSのあのときの行為とあの笑顔がずっと頭から離れなかった。「人は皆、生存競争の中で自分の利益を守って生きていくのが当然ではないか？ 私にはSのようなことはできない！」と思った。だが一方、Sが愛していたイエス・キリストや聖書への興味がますます深まり、近所の教会へ行き、聖書を学び、洗礼を受けた。そして、ある日、ふとイエスの存在を身近に感じた。今から約2000年前、私のような自己の利益のみを守る人々によって、罪のないイエスは十字架上で処刑された。なぜ神様はそれを黙認されたのか？ イエスの死によって「私にはできない！」という部分…つまり、私の人間としての弱さや醜さが贖われたのではないだろうか？ それは神様の愛である。いつか私もSのようになれるかもしれない。私は今、そこに大きな希望をもっている。

T. K

【教会歳時記】 1、「母の日」に教会は

今年の「母の日」は、5月14日です。「母の日」の起源は、アメリカの教会学校で、「あなたの父と母を敬え」という十戒の教えから、「母の愛に感謝する方法を…」ということで始まったものです。「5月の第二日曜日。子供が母親に感謝する日。カーネーションなどを贈る。アメリカで始まり、第二次世界大戦後、わが国でも広がった」ものの本にはこのように書かれています。

教会においても、礼拝の中で母を讃え、ささやかな感謝の時を持ちます。

気儘^{きまま}に生きて来た筆者は、母が健在の頃には、親の存在すらも思ったことがない程の不孝者でした。が、亡くなって後、心の中にぽっかりと空洞ができ、遣^やる瀬^せ無い気持に、半年程^{さいな}苛まれた記憶があり、失ってみて母の存在の大きさと、思慕の深さを再認識したものです。そして、この日になるといつも思い出す詩があります。

一番苦手なのは (サトウハチロー)

一番苦手なのは おふくろの涙です

何にもいわずに こっちを見ている

涙です その涙に 灯りが

ゆれたりしていると そうして 灯りが

だんだんふくらんでくると……

……これが一番苦手です



この経堂バプテスト教会では、6月11日「父の日」にも、礼拝の中で同じような感謝の交わりをします。

2、ペンテコステ（聖霊降臨の日）とは

前号で、教会の年間行事として名をあげたので概略を書きます。

ペンテコステ(Pentecost)、五旬祭（節）、聖霊降臨祭（節）ともいいます。

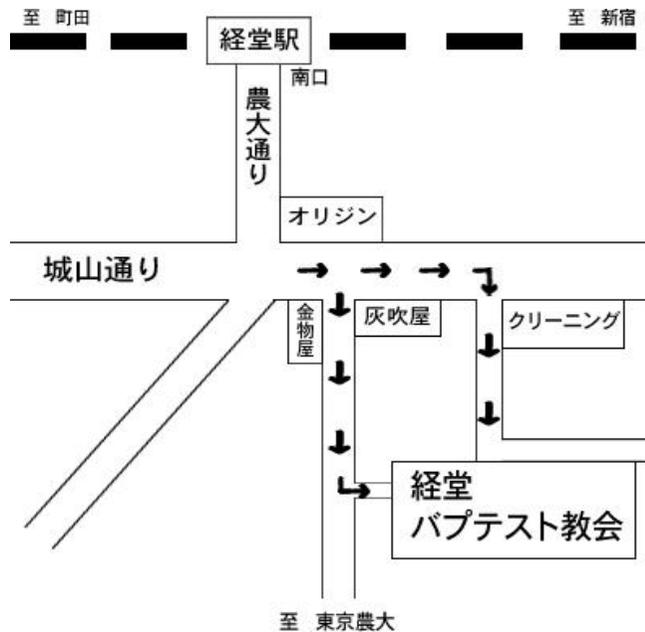
イースター（復活祭）より、50日目にあたる日と定められております。昨年は、5月15日が、ペンテコステでした。今年は算出上から、6月4日、主日礼拝の日がペンテコステということになります。

この教会では特別に大きな行事はしませんが、弟子たちに驚くべき祝福と奇跡と力が与えられた初代教会の誕生日として、大切な記念日です。

ともあれ、こうした記念の日に、気軽に教会の門を叩いて下さい。お待ちいたします。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。